

節目の大会 キックオフ

第100回 全国高校サッカー選手権



生まれ変わった「聖地」で開会式に臨む長崎総合科学大付の選手たち

国立競技場（濱崎武撮影）

第100回の節目を迎えた全国高校サッカー選手権が28日、東京・国立競技場で開幕し、1回戦で関東第一（東京B）が中津東（大分）に6-0で快勝した。東京五輪・パラリンピックのメインスタジアムだった国立競

技場の使用は第92回大会以来。来年1月8日の準決勝と10日の決勝も同会場で、観客数を制限せずに行われる。試合に先立ち、前回は新型コロナウイルス感染拡大の影響で見送られた全48代表校による開会式

を実施した。高川学園（山口）の奥野奨太主将が「全てのプレーに全身全霊を尽くし、日本サッカー界の伝統、選手権の歴史に新たな一ページを書き記す」と力強く選手宣誓した。第2日は29日、首都圏各地で1回戦15試合を実施。長崎県代表の長崎総合科学大付は午後0時5分から、東京・駒沢陸上競技場で北海（北海道）と対戦する。

長総大付「聖地」を堂々行進 きょう北海戦

〇…開会式は代表全48校が参加する「完全開催」となった。46番目に登場した長崎県代表の長崎総合科学大付も、ひときわ大きな掛け声で堂々の入場行進を披露。晴天の下、生まれ変わった国立競技場の芝を一足早く踏み締めた。

コロナ禍でマスクを付けたままの入

場行進となったが、選手たちは開会式の開催を喜んでいた様子。選手宣誓時は各校代表が中央に集まり、長総大付の児玉勇翔主将も部旗を掲げて全力プレーを誓った。目標は4強入り。準決勝で再び「聖地」に戻ってくる決意を新たに、まずは北海との初戦に挑む。

（中島宙）